



鹿沼労働基準監督署

署長

常盤 宗孝

平成9年度任官

Q：技術者志望から行政官となって後悔は？

- 私の大学時代の専攻は理学系の化学でした。人と接するのが得意ではなかったこともあり、化学関係で黙々と自分のやりたい研究・開発の仕事がしたいなあと思っていました。
- しかし、民間企業の採用担当経験者（親戚）から、「多くの企業は、新卒者が研究部門で即戦力になるとは考えない。まずは営業を任せられたり、研究部門でもチームを組んで仕事」という話を聞きました。実際のところ、親戚の話を踏まえ、「労働基準監督官」を志望したことは、自分の中では正解でした。
- 労働基準監督機関の基本的な役割は、法定労働条件及び安全衛生管理水準の確保・改善を図ることにより、社会・経済の発展に資することです。このような役割を担う職場は、他にはありません。企業や現場を訪問する機会が多く、多種多様な分野の産業における実情や最新情報を知ることができる上、法の適用や効果的な安全衛生対策などを調べ情報提供することを通じて、自分の勉強にもなりましたし、様々な企業の方々と接することで、苦手意識も克服され、人生観も変わりました。

Q：採用前に学んだ知識や経験について、実務で行かせた場面は？

- 安全衛生業務においては、各種機械設備の設置や建設工事に係る届出審査に当たり、ボイラーやクレーン、エレベーター、足場、型枠などの構造に係る強度計算や局所排気装置の圧力損失算出、工事における具体的な安全衛生対策の内容などのチェックを行い、付属設備を含め法に適合していない場合は、審査時または検査や実地調査時に改善指導を行うこととなります。
- 機械設備の仕組みや化学物質の特性、製造・工法、各種力学、情報収集手段などの予備知識があればあるほど、対応できる範囲や指導内容が充実し、その分、より多くの災害の未然防止にも繋がります。また、災害調査においても、発生原因の究明と再発防止対策の検討に当たり非常に役立ちます。
- 私の場合、B監ということもあり、早くから安全衛生担当部署に配属されました。強度計算や化学物質の調査などに当たっては、比較的馴染みやすかったです。工学系の知識等がある方であれば、よりスムーズに対応できると思います。



理系の学生に伝えたいこと

- 高度経済成長期にあったおよそ60年前、全国では労働災害により年間約7,000人もの尊い命が失われていたところ、昨今は、ようやく1,000人を下回るところまで改善されました。死亡災害ゼロの達成に向け、企業も行政も一層の努力が必要な状況にあります。2008年以降、安全衛生のスペシャリストである厚生労働技官の採用は見送られており、労働基準監督官（特にB監）の役割はますます重要となっています。
- 理工学系の知識と経験をお持ちの方は、特に労働基準監督官という専門職にこそ活躍の場があると思いますので、是非この仕事に就くことをご検討いただくと幸いです。